



発行者

北海道へき地・複式教育研究連盟
<http://dohekifuku.zenhekiren.net/>

委員長 柿崎 秀 顕

編集責任者 長谷川 孝

印刷所 株式会社ビジネスサポート

岩内郡共和町南幌似39-1 TEL 0135-67-7350

題字 書家 濱谷 彩鶴 (はまや さいかく) 氏

実践力の向上と会員一人一人にとって 「役に立つ研究連盟」であることを目指して

北海道へき地・複式教育研究連盟委員長 柿崎 秀 顕



平成30年度の活動を終えるにあたりまして、全道の会員みなさまにあらためて感謝を含めながらご挨拶申し上げます。

また、このたびの9.6胆振東部地震に伴い、道内はもとより、全国からの温かい励

ましのお言葉を多くの会員の方々からいただき、「へき複連はあたたかいな」とあらためて感じるひとときでした。紙面ではありますが、この場をお借りし、あらためてお礼申し上げます。

さて、今年度は第67回全道へき地複式教育研究大会後志大会が、倶知安町を全体会の会場として、後志管内でも加盟校が激減する中、400名を超える参加者を得て、実り多き研究大会とすることができました。

特に、分科会においては、学習過程の工夫の一つである「同時間接指導」の手法を用いた授業を複数校で公開され、大会終了後も数々の問い合わせがあったと聞いており、後志地区が積み重ねてきた実践が、今後へき地・複式・小規模校以外の学校においても生かすことができる研究だと思いと、これから迎える新たなステージへの道標の一つになったと確信できました。

後志へき地・複式教育研究連盟の皆さんの真摯

な取組と実践の確かさに感謝し、あらためて敬意を表します。

また、今年の後志大会の成果を継承し、次年度の大会を開催する空知プレ大会では、「緑濃き空知の沃野から 次代を担う子らに 未来を拓くたくましい力を！」の大会スローガンのもと5市町7会場で、へき地・複式の強みを生かし、学びあい、深めあい、高めあう教育実践を公開し、盛会のうちに終えることができました。

本研究連盟としましては、両大会の成果と課題を整理し、来年度から始まる第10次長期5カ年研究推進計画へとつなげてまいりますので、ご理解とご協力をお願いいたします。

終わりに、今年度から新学習指導要領の移行措置が始まり、全道・全国から聞こえてくる課題の一つに道德の教科化や外国語活動は実際の授業を実施する上で、わたりずらしによる授業形態がゆえの新たな課題が浮き彫りになっています。その点において、本研究連盟は共同研究方式をとっていますので、情報を共有し、各管内から全道、全国へと交流の輪を広げていくことが、課題を解決する一歩となるのではないかと感じております。

これからも実践力の向上と会員一人一人にとって「役に立つ研究連盟」であることを目指していきたいと考えておりますので、今後ともご支援ご協力をよろしくをお願いいたします。

平成30年度 会務報告

事務局長 古田 統

1 一般経過報告**【5月】**

- 11日(金) 平成30年度定期総会
(ライフオート札幌)
新旧役員引継、第1回組織検討委員会
第1回常任委員会
関係機関への就任挨拶回り
(道教委、北海道通信社、弘済会)
- 12日(土) 道へき複連OB会総会
(アパホテル：委員長・事務局長・事務局次長)
- 21日(月) 第1回企画委員会・第1回研究推進委員会※～22日
- 29日(水) 全へき連 平成29年度 第6回理事会
(東京：委員長)
- 30日(木) 全へき連春季総会
(東京：委員長・事務局長)
※全へき連春季総会において柿崎委員長が会長に就任する
第1回理事会
(東京：委員長・事務局長)

【6月】

- 15日(金) 情報誌162号発行
- 20日(水) 日本教育公務員弘済会 教育研究団体助成金入金《23万円》
- 26日(火) 第2回常任委員会
(ライフオート札幌)
北海道小学校長会との教育懇談会

【7月】

- 9日(月) 第2回企画委員会／第2回研究推進委員会
- 10日(火) 第2回研究推進委員会
平成31年度の空知大会開催に向け、空知教育局及び管内教育長部会総会において協力依頼を行う
(岩見沢：委員長・事務局長)
- 26日(木) 第2回全へき理事会
(東京：委員長・事務局長)
- 27日(金) 第2回全へき理事会
(東京：委員長・事務局長)
第1回全へき図書編纂委員会(東京：委員長・事務局長・研究部長)

【8月】

- 6日(月) 第3回常任委員会
(ライフオート札幌)
第2回組織検討委員会
(ライフオート札幌)
- 18日(土) OB会役員会、研修会
(札幌アパホテル～委員長・事務局長・事務局次長)

【9月】

- 19日(水) 第4回常任委員会・第1回監査委員会・第3回企画／研究推進委員会
(ホテル第一会館)
- 20日(木) 評議委員会
第67回北海道へき地複式教育研究大会後志大会全体会、分散会
(ホテル第一会館)
- ～21日(金) 〃
分科会(管内8会場)
- 28日(金) 第68回全道へき地複式教育研究大会空知プレ大会 各分科会への巡回訪問
(総務部長・財政部長・事務局次長)

【10月】

- 10日(水) 全へき連秋季総会、第3回理事会
(京都市～委員長・事務局長)
- 11日(木) 第67回全国へき地教育研究大会京都大会(委員長、事務局長、研究部長)
- ～12日(金) 〃

【11月】

- 15日(木) 情報誌163号発行
- 28日(水) 全へき連第4回理事会
(東京～委員長・事務局長)
- 29日(木) 第44回全へき連研究推進協議会①
(東京～委員長、研究部長)
- 30日(金) 第44回全へき連研究推進協議会②
()
全へき連第2回図書編纂委員会
(東京～研究部長・事務局長)

【1月】

- 17日(木) 第5回常任委員会
(ライフオート札幌)
- 25日(金) 全へき連第3回図書編纂委員会
(東京～委員長・事務局長・研究部長)

【2月】

- 9日(土) OB会役員との情報交換会
(札幌～委員長・事務局長・事務局次長)
- 12日(火) 第4回企画委員会、第4回研究推進

- 委員会（ライフオート札幌）～13日
 14日(木) 全へき連第5回理事会（東京～委員長・事務局長）～15日
 15日(金) 情報誌164号発行

【5月（予定）】

- 9日(木) 平成30年度第6回常任委員会、第2回監査委員会
 10日(金) 平成31年度 北海道へき地・複式教育研究連盟定期総会
 第1回組織検討委員会
 第1回常任委員会
 関係機関挨拶回り（道教委ほか）

2 一般業務報告

本連盟は、昭和23年に結成され70年目という節目の年を迎えました。これまでの70年間、地域に根ざした教育を探求するとともにへき地校の教育条件整備を進め、確実に成果を重ねてきました。平成30年度においても、研究、組織、教育条件整備等の課題解決に向け業務を推進してきましたので、その概要を申し上げ会務の報告と致します。

◇ 研究面では、第9次長期5か年研究推進計画の最終年次（5か年目）として、第67回全道へき地複式教育研究大会後志大会、第68回全道へき地複式教育研究大会空知プレ大会を開催いたしました。現地実行委員会、会場校並びに各地区へき地複式連盟（研究会）の多大なご協力により、実践的研究成果が全道に発信され、第9次長計の実践研究整理期として、その研究成果を発信することが出来ました。1日目に開催した「分散会」でも、学校・学級経営、学習指導あわせて3つの実践発表のもと熱心な討議をいただき、全道各地のへき地・複式教育の交流と充実を図ることができました。

また、空知プレ大会においては10次長計を意識した研究、実践が進められ、新たなテーマへの橋渡しとなる大会となりました。

◇ 組織面では、各市町村による学校規模適性配置計画の推進や少子化による児童生徒数の減少からへき地・小規模校の統廃合が進み、加盟校及び会員の減少が加速しております。これに伴う今後の組織や事業の在り方、財政運営について、組織検討委員会の答申を受けて、全道研究大会の持ち方などについてのアンケートに取り組みました。（その経緯と方向性について定期総会の場で説明、討議に付してまいります。）また、未加盟校への働きかけについては、各地

区に道へき複連発足の趣旨や目的、加盟することのメリット等についての啓発活動を行うなどの意識高揚に向けた取組をお願いしてきました。

◇ 教育条件整備については、3学級4定員や教頭未配置校の解消をはじめ、へき地複式校の抱える諸課題解決のため、全へき連、道小、道へき複連OB会と連携しながら、関係機関に要請してきました。

「へき地手当に関する規則の運用等についての一部改定」により平成22年4月から始まったへき地新級地の適用については、今後も地域の実態に応じた算定であるか、適切な調整点であるかなどの検討に努め、国や道へ意見具申を続けていきます。

◇ 本連盟創立70周年記念誌「拓魂無限～道へき・複連50周年記念誌・60周年記念誌追録～」を各教育関係機関、各地区連盟、会員、OB等のご協力の下、発刊する事が出来ました。

◇ 研究推進、組織確立、財政上の諸課題につきましては、組織検討委員会を設置して検討を重ねてきました。中間答申をもって報告させていただきましたが、連盟だけでなく各地区の課題も踏まえた論議を重ね、時代や社会環境の変化に対応した組織運営を目指してきました。

3 情報関係活動経過報告（概要）

事務局次長 長谷川 孝

- 5月11日(金) 定期総会で「道へき・複連情報」発行計画を承認
 情報162号原稿依頼
 6月15日(金) 情報162号発行・発送
 道へき・複連HP更新
 9月3日(月) 情報163号原稿依頼
 11月15日(木) 情報163号発行・発送
 道へき・複連HP更新
 12月17日(月) 情報164号原稿依頼
 2月15日(金) 情報164号発行・発送
 道へき・複連HP更新

4 情報関係業務報告

(1) 情報関係

「道へき・複連情報誌」（162、163、164号）を発行し、広報活動に努めました。162号では定期総会特集、163号では第67回全道へき地複式教育研究大会後志大会特集、164号では平成30年度の活動報告及び次年度の空知大会や檜山プレ大会についてのお知らせを掲載しました。今年度開催

された後志大会の推進に際し、ご尽力いただいた後志へき・複連の皆様をはじめ、多くの方に情報提供や原稿執筆を賜りましたことに改めて感謝とお礼を申し上げます。

各地区のへき・複連事務局におかれましては、お忙しい中情報提供、加盟校への連絡や配布、お願い等に対して快くご協力いただいたことに心よりお礼を申し上げます。

〈各号の主な内容〉

【第162号】

平成30年度 道へき・複連定期総会特集号

- ・定期総会報告
- ・役員・代議員研修会の概要
- ・第67回全道へき地複式教育研究大会後志大会の案内
- ・第68回全道へき地複式教育研究大会空知ブレ大会の案内

【第163号】

第67回全道へき地複式教育研究大会後志大会特集号

- ・後志大会の報告
- ・第68回全道へき地複式教育研究大会空知大会案内

【第164号】

平成30年度 道へき・複連活動報告特集号

- ・今年度の活動報告
- ・第68回全道へき地複式教育研究大会空知大会に向けて
- ・第69回全道へき地複式教育研究大会檜山ブレ大会に向けて

〈道へき・複連ホームページの内容〉

- 1 概要 (要覧 管内割当)
- 2 長期研究推進計画
- 3 各地区研究主題
- 4 道へき・複連刊行物 (道へき・複連情報 研究部情報 他)
- 5 実践事例
- 6 全道大会 全国大会
- 7 調査等報告書
- 8 シンボルマーク へき地教師の歌「太陽と なるう」

(2) 「全国へき地教育新聞」関係

① 購読拡大の取組

「全国へき地教育新聞」は、全へき連とへき地・複式校を結ぶ唯一の機関紙であり、へき地・

複式教育に係る各種情報を掲載するとともに、私たちの教育実践を発表し、広く交流できる新聞です。しかしながら、へき地・複式校の減少に伴い、購読料の減少が発行を困難にする要因になってきている現状もあります。読者の購読料により刊行される新聞のため、より多くの読者に購読されるよう努めていかなければならないことから各地区へき・複連で納入する場合については一部に付き150円の還元をさせていただいていることをお知らせしながら、各地区での「全国へき地教育新聞」の購読強化をお願いしたところです。

〈取組の手立て〉

- 購読率の低い地域に購読校を増やすよう働きかける。
- 各地区へき・複連に未購読校への働きかけをすると同時に、関係機関に購読料の予算化を働きかける。
- 各地区へき・複連の会議、会合において購読の呼びかけを行う。
- 各地区へき・複連に「全国へき地教育新聞」担当者または係を置き、地区内の購読校の把握をし、集金事務を行う。
- 「全国へき地教育新聞」担当者を決め、地区へき・複連との連携を図る。
- ②「全国へき地教育新聞」原稿執筆の取組
原稿種別、送付月を地区ごとに割り振り、執筆をお願いしました。(今年度原稿本数38本)
これまでの各地区へき・複連および執筆者各位のご協力に対しまして心より感謝とお礼を申し上げます。なお、全国へき地教育新聞編集局の依頼で、執筆原稿はメールまたは封書にて執筆者が直接送信(返信)することになっておりますので、次年度も同様をお願いいたします。

〈原稿種別〉

- 1 論評(市町村教育長、各局指導主事等)
- 2 山紫水明(校長)
- 3 随想(教頭、教務主任、学級担任等)
- 4 心温まる話(どなたでも)
- 5 私の推薦する一冊の本(校長、教頭等)
- 6 やすらぎ保健室(養護教諭)
- 7 さわやか事務室から(事務職員)
- 8 わが町・わが学校(保護者)
- 9 研究実践校紹介(実践校)
- 10 子どもたちの学校紹介(児童・生徒)
- 11 子どもたちの作品(児童・生徒)

平成30年度 総務部報告

総務部長 温泉 敏

5月10日 2019年度定期総会

1 活動経過報告

- 5月11日 道へき・複連総会
第1回組織検討委員会
第1回常任委員会
- 5月14日 道小総会・研修会
15日 第1回道小理事研修会
分科会運営研修会
- 6月11日 70周年記念誌原稿執筆依頼完了
12日 組織検討委員会
各地区事務局に意見書を配信
15日 全道小学校長会長研修会
22日 全へき連調査・リンク集調査配信
26日 第2回常任委員会
道小との教育懇談会
- 7月2日 第2回道小理事研修会
分科会運営研修会
9日 組織検討委員会 各地区意見集約
13日 全へき連基本調査集約
18日 全へき連リンク集調査集約
26日 全へき連基本調査・リンク集報告
31日 70周年記念誌原稿集約完了
- 8月6日 第3回常任委員会
第2回組織検討委員会
9日 文教施策懇談会・各課懇談会提言
20日 70周年記念誌入札
- 9月7日 70周年記念誌業者決定
10日 70周年記念誌原稿入稿
(以後4回校正)
19日 第4回常任委員会
20日～21日
第67回全道へき・複研究大会
後志大会
第2回評議委員会 (20日)
- 28日 第68回全道へき・複研究大会
空知プレ大会
- 10月3日 第3回道小理事研修会
分科会運営研修会
4日～5日
全連小北海道大会函館大会
(運営責任者)
- 11月27日 70周年記念誌校正完了
12月17日 第4回道小理事研修会
18日 組織検討委員会最終報告集約
70周年記念誌発刊
- 1月17日 第5回常任委員会
2月22日 第5回道小理事研修会
5月9日 第6回常任委員会

2 教育予算要望等の要望について

(基本的な要望事項)

1. 教員定数の配置基準および学級編成基準の改善
2. 教職員の生活の安定・向上のための改善
3. 教職員の資質向上に関わる研修についての改善
4. 学校経営の適正化と充実
5. へき地教育の推進についての改善
6. へき地勤務条件の充実

上記「基本的な要望事項」にもとづき、「北海道文教施策・予算策定に関する要望活動」「全へき連と連携した要望活動」を中心に行ってきた。その中で「平成30年度の文教施策と予算策定に関する要望書」には、昨年度同様「へき地校・複式校・小規模校・併置校に関わる」項目において要望を強調した。また、道教委との文教施策懇談会・各課懇談会で「へき地複式教育における課題」についての提言を行った。今後も、へき地・複式教育の教育環境の向上を目指し、ねばり強く取り組んでいく必要がある。

3 へき地級別指定見直しに関する取組

次期改定に向けて、道教委の動きを注視しながら「地域の実態に応じた算定であるか。」「適切な調整点であるか。」など情報収集に努め、全へき連、道小、道へき・複連OB会と連携を深めていく。

4 調査活動

例年実施している「全へき連基本調査」を実施

5 組織検討委員会の活動概要

(1) 組織検討委員会の構成

委員長：簗島 裕二 (道央ブロック・石狩)
委員：三浦 敏 (道南ブロック・胆振)
遠藤 友文 (道北ブロック・上川)
菅原 敏明 (道東ブロック・オホーツク)

他に常任委員を加え、計10名で構成

(2) 検討課題

- ①研究大会・プレ大会のあり方
- ②最終報告に基づく取組について
 - ・組織の活性化と加盟校拡大
 - ・研究活動の充実と深化
 - ・財政の問題
- ③その他：今日的課題

平成30年度 大会部報告

大会部長 山本 康博

1 大会名

第67回全道へき地複式教育研究大会後志大会
第68回全道へき地複式教育研究大会空知プレ大会
第67回全国へき地教育研究大会京都大会

2 後志大会の概要

(1) 研究主題

主体的・創造的に学び、豊かな心でたくましくふるさとを切り拓く子どもの育成
～へき地・複式教育の特性を生かし、児童生徒一人一人に未来に「生きる力」をはぐくむ学校・学級経営と学習指導の充実をめざして～

(2) 大会スローガン

自然豊かな後志から 夢・希望に挑戦する子らへ 豊かな心と学び続ける力を！

(3) 開催期日

平成30年9月20日(木)～21日(金)

(4) 大会内容

20日(木)：倶知安町 ホテル第一会館
開会式、基調報告、分散会、閉会式

21日(金)：5町3村8会場

- 第1分科会 寿都町立潮路小学校
- 第2分科会 蘭越町立昆布小学校
- 第3分科会 ニセコ町立近藤小学校
- 第4分科会 真狩村立御保内小学校
- 第5分科会 喜茂別町立鈴川小学校
- 第6分科会 倶知安町立西小学校樺山分校
- 第7分科会 神恵内村立神恵内小学校
- 第8分科会 赤井川村立都小学校

(5) 成果と課題

- ◇学習ガイドやスタンダード等の有効性
「学習規律や学習の流れが明確」「主体的な学び」「自力解決、交流、同時間接等の時間確保」
- ◇ノート指導と連動した板書計画
「思考を促す手立て」「振り返りの手立て」「ポイントをまとめたノートづくり」
- ◇学習リーダーの育成
「発達段階ごとに役割が明確」「自主的な学習」「表現力の向上」
- ◆学習ガイド、スタンダードの深化・充実
「発展的なものへの改善」「実態による年次改良」
- ◆交流の在り方と学習リーダーの育成
「学びを深める交流」「効果的な教師の支援」
- ◆「見通し」「振り返り」を位置付けた学習過程
「具体物やICTの活用」「ねらいを明確に」

3 空知プレ大会の概要

(1) 研究主題

主体的・協働的に学び、ふるさとへの誇りと愛着をもった人間性豊かな子どもの育成
～児童生徒一人一人が仲間とつながり、地域とともに「生きる力」を伸ばす学校・学級経営と学習指導の充実をめざして～

(2) 大会スローガン

緑濃き空知の沃野から 次世代を担う子らに
未来を切り拓く たくましい力を

(3) 開催期日

平成30年9月28日(金)

(4) 大会内容

- 第1分科会 深川市立北新小学校
- 第2分科会 深川市立納内小学校
- 第3分科会 美唄市立峰延小学校
- 第4分科会 岩見沢市立メープル小学校
- 第5分科会 栗山町立継立小学校
- 第6分科会 長沼町立長沼舞鶴小学校
- 第7分科会 長沼町立南長沼小学校

(5) 空知大会の意義

空知大会は、道へき・複連の10次長計1年次に当たる。これまでの成果を継承しつつ、道へき・複連の2分野6課題への対応、新しい教育の動向、へき地・複式・小規模校の3特性を押さえての研究実践に努め、へき地・複式教育の一層の充実を図る。

4 全国京都大会

(1) 研究主題

ふるさとで心豊かに学び、新しい時代を切り拓く子どもの育成
～へき地・小規模・複式学級を有する学校の特性を生かした学校・学級経営と学習指導の深化・充実をめざして～

(2) 大会スローガン

歴史と伝統の京都から 人とつながり 挑戦し続け 未来を切り拓く子どもを育もう

(3) 開催期日

平成30年10月11日(木)～12日(金)

(4) 分散会提言

- ①第4分散会
領域：学習指導の深化・充実
課題：児童生徒の分かる喜びや個性の伸長を重視した指導計画の改善・充実を図る。
- ②提言発表者(宗谷地区)
礼文町立香深井小学校長 虻川 康士
- ③研究主題
主体的に学びを深めていくことのできる子どもの育成
～楽しくわかる授業づくりを通して～

平成30年度 研究部報告

研究部長 栗田 真

1 研究主題

『主体的・創造的に学び、豊かな心でたくましくふるさとを切り拓く子どもの育成』
～へき地・複式教育の特性を生かし、児童生徒一人一人に未来に「生きる力」をはぐくむ学校・学級経営と学習指導の充実をめざして～

2 活動の重点

第9次長期5か年研究推進計画の実践研究整理期(第5年次)としての確かな実践研究を行い、地域に根ざした魅力ある教育活動を推進する。

また、第67回全道へき地複式教育研究大会後志大会及び第68回全道へき地複式教育研究大会空知プレ大会を通して記録の累積・収集を行い、第10次長期5か年研究推進計画に活かす。

3 活動報告

(1) 共同研究体制の強化と実践研究の充実

①企画委員会

- ・構成…研究部長、研究推進委員長、副委員長、部長
- ・開催日…5月21日、7月9日、2月12日
- ・内容…研究推進委員会の運営や全道大会の対応等について

②研究推進委員会

- ・構成…研究部長、各地区研究推進委員
- ・開催日…5月21～22日、7月9～10日、9月19日、2月12～13日
- ・内容…研究推進委員会の役割、全道大会への協力、へき複に関する調査、情報発信等について

③各地区へき・複連研究活動への協力

- ・各地区研究大会等への支援

④未加盟校・小規模中学校への共同研究参加呼びかけ

(2) 第67回全道へき地複式教育研究大会後志大会の開催

①開催日…9月20～21日

②大会内容

- ・基調報告…後志へき地・複式教育連盟
- ・分散会…留萌・胆振・日高地区より提言
- ・分科会…8町村8会場

③協力内容

- ・分散会の企画・運営、分科会での助言

④成果と課題

- ・分散会は、ワークショップ形式でおこなわれ、若手・ベテラン・管理職が同じテー

ルで活発な情報交換や意見を交わし、実り多きものとする事ができた。

- ・分科会は、これまで後志地区が実践を積み重ねてきた「同時間接指導」が注目を集めた。終了後も様々な問い合わせがあり、今後の指導方法の道標となった。

(3) 第68回全道へき地複式教育研究大会空知プレ大会の開催

①開催日…9月28日

②大会内容

- ・分科会…5市町7会場

③協力内容

- ・分科会での助言

④成果と課題

- ・第10次長期5か年研究推進計画の先行実施の形でおこなわれ、新しい長期計画のスタートを切ることができた。
- ・空知管内のへき地・複式校の協働・共育・共生の下、組織的・計画的な実践研究を進めることができた。

(4) 第9次長期5か年研究推進計画実践と累積

①各地区実践事例の収集

②全へき図書編纂委員会への実践資料提供

- ・乙部町立明和小学校
- ・八雲町立山越小学校

③地区へき・複連教育実践研究資料の蓄積と還流

(5) 研究資料の編集と発行

①道へき・複連「研究部情報」の発行

- ・7月…長期計画の推移、研究組織
- ・2月…全道大会、プレ大会の概要報告

②調査結果と分析

- ・全道複式校の研究分野・課題
- ・全道複式校の学級編制・形態
- ・複式学級を有する学校の指導形態
- ・研究大会に関するアンケート

③HPへの掲載(北海道教育大学の協力)

- ・第9次長期5か年研究推進計画に基づく各地区実践事例
- ・第10次長期5か年研究推進計画

(6) 教育関係各機関・団体との連携

①北海道教育委員会・各教育局との連携強化

②北海道立教育研究所、各地区教育研究所、北海道教育大学との連携

③全国へき地教育研究連盟との連携

(7) 第10次長期5か年研究推進計画の啓発

①役員・代議員研修会にて第10次長期5か年研究推進計画の概要を説明

②10次長計データをCDで全加盟校へ配布

③各地区研究推進委員による啓発活動

平成30年度 財政部報告

財政部長 辻崎 洋一

1. 平成30年度業務執行について

- (1) 会計業務については、事務局及び各部、各委員会、各地区へき・複連との連携を図り、計画に従って執行しております。
- (2) 道へき・複連会費については、当加盟会員数の減少により会費収入が減少いたしました。計画に従って執行することができました。
- (3) 全へき連会計につきましては、負担いただいた分を滞りなく支出することができました。今後、次年度に向けて全へき連への免除申請を行って負担金を決定いたします。また、管理職負担金につきましても、各地区のご協力により入金され、全へき連への送金を終えております。
- (4) 刊行物につきましては、今年度、北海道へき地・複式教育研究連盟結成70周年記念誌『拓魂無限～追録～』を発行することができました。執筆者の皆様には、お忙しい中、快くお引き受けいただいたことに感謝申し上げます。
- (5) 全へき連発行のへき地・複式・小規模学校からの発信「豊かな学びの継承」の取組を進めることができました。各地区へき・複連においては発刊の趣旨をご理解賜り、ご協力いただいたことに感謝いたします。
- (6) 運営資金会計は、拠出金の微増となりました。納入された金額の中から規定通り全へき連へ送金いたします。各地区へき・複連のご理解とご協力に心より感謝申し上げます。

2. 平成31年度の予算編成について

- (1) 予算編成における収入の見込みについては、学校の統廃合や学校規模の縮小により、今後も学校数・教職員数の減少等が予想され、昨年度以上に厳しい情勢となると思われます。予算編成の基礎資料として、2月中旬に各地区のへき・複連の加入校数・教員数を調査し、収支予定額を把握した上で予算を編成いたします。各地区の担当者の皆様にはお手数をかけますが、よろしくお願いいたします。
- (2) 平成31年度の一般会計については、諸活動の充実に努めるとともに、削減可能な項目をより意識して予算編成を行い、平成31年度総会に提案します。
- (3) 現在執行中の旅費規定は、会員の皆様にご協力いただき圧縮していきたいと考えております。ご協力をよろしくお願いいたします。
- (4) 全へき連会計及び運営資金会計は、納入される負担金等の範囲内で執行します。また、全へき新聞に代わるHPの運営費については限られた予算の中で対応していきたいと考えております。今後とも、管理職の皆様をはじめ教職員の皆様への納入拡大への働きかけや未加入校の加盟を促すようお願いいたします。
- (5) 刊行物会計については、平成30年度も、本道の実践も盛り込まれた全へき連の刊行物発行が予想されます。各地区へき・複連においては、研究図書を購入として予算付けし、購読促進の取組をぜひお願いいたします。

平成30年度 一般会計執行状況 (平成31年 1月20日見込)

【収入の部】

項目	30年度予算	決算見込	増・減(▲)
会費	3,376,818	3,257,802	▲119,016
繰越金	337,244	337,244	0
繰入金	800,000	800,000	0
助成金	200,000	200,000	0
雑収入	30	20	▲10
合計	4,714,092	4,595,066	▲119,026

【支出の部】

項目	29年度予算	決算見込	増・減(▲)
研究大会費	910,000	910,000	0
研究調査費	1,770,000	1,546,590	▲223,410
研成刊行費	302,000	301,296	▲704
事務局費	1,732,092	1,213,012	▲519,080
合計	4,714,092	3,970,898	▲743,194

◇学校数 240校 ◇教員数 1,547名

【差引残高(1/20見込)】 4,595,066円 - 3,970,898円 = 624,168円

第68回 全道へき地複式教育研究大会 空知大会の開催に向けて

空知へき地・複式教育研究連盟

研究部長 山下 正志

1 はじめに

昨年9月28日(金)空知管内7会場において、第68回全道へき地複式教育研究大会空知プレ大会が開催されました。

空知管内では学校の統廃合が進み、現在、小学校の複式校は15校となりました。今後も減少が予想される状況にあります。こうした中、空知へき地・複式教育研究連盟では、今回のプレ大会に向けて実行委員会を組織し、会場校と研究協力校による分科会実行委員会を主体とした共同研究をもとに授業研究に努めてまいりました。各実行委員会では、授業研究や指導案検討が6月～9月の間で精力的に行われ、空知プレ大会に向けた授業校の授業改善はもちろん、研究協力校にとっても授業力向上に繋がる貴重な取組となりました。

こうした取組を経て開催された空知プレ大会には、管内・管外より全会場合わせて270名ほどの教職員及びご来賓・学校関係者の皆様にご参加をいただきました。公開授業・研究協議では、複式授業の在り方について多くのご意見・ご助言をいただくことができました。この場をお借りいたしまして改めて心からお礼を申し上げます。

また、本大会の開催にあたり、多大なるご支援・ご協力をいただきました北海道へき地・複式教育研究連盟をはじめ、北海道教育庁空知教育局、各市町教育委員会、会場校・研究協力校等、教育関係団体の皆様に心より感謝申し上げます。

2 空知プレ大会の成果と課題

空知プレ大会は、北海道へき地・複式教育研究連盟第9次長期5か年計画の最終年の期末整理期を踏まえながら、次年度の本大会に向けて1年前倒しを行い、第10次長期5か年計画に基づいた実践検証を進めてまいりました。各校では、自校の研究課題と研究内容を第10次長計の2分野6課題の研究内容との関連を明確にしながら研究推進に努め、その結果、以下のような成果と課題が明らかとなりました。

【成果】

- ・学習規律や学習過程において各校で統一し取り組んだことにより、子ども達は見通しをもって主体的に学習に取り組むことができている。

- ・ICT機器も含めた教材教具・教育機器等を効果的に活用することで、自力解決に向かう確かな力がついてきている。
- ・学習形態の工夫や主体的なガイド学習により、学習リーダーを中心に少人数における質の高い言語活動が見られるようになった。
- ・振り返りの場面では、教師がその内容を明確に押さえておくことにより、児童が本時の学習に対して主体的に取り組めるようになってきた。

【課題】

- ・学習形態の目的をはっきりさせ、その活動は何のためにしているのか、ねらいを達成させるための有効な学習形態が何なのかという視点を明確に持つことが必要。
- ・「主体的・対話的で深い学び」において、単元やまとまりの中で児童に考えさせる場面と教師が教える場面をどう位置付けていくかを考えていくことが大切。
- ・児童が主体的にふりかえる活動ができるよう、その目的と方法について研究を深める必要がある。
- ・深い学びに繋げるための練り合い・高め合いの交流について、より有効な方法を研究していく。

3 空知大会に向けて

第68回全道へき地複式教育研究大会空知大会は、北海道へき地・複式教育研究連盟第10次長期5か年研究推進計画の初年度にあたります。空知へき地・複式教育研究連盟としては、第10次長計が掲げる「学習指導の深化・充実」に関わる3つの課題を受け、研究を進めてまいりたいと考えています。空知大会で目指す理念は以下の通りです。

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> (1) ふるさと空知を愛する人を育てる (2) 社会の変化に対応できる確かな学力と豊かな心を育てる (3) 夢と希望を持ち、その実現を成し遂げる力を育てる |
|---|

第68回全道へき地複式教育研究大会空知大会は、大会スローガン「緑濃き空知の沃野から 次世代を担う子らに 未来を切り拓くたくましい力を」のもと、今年9月19・20日に開催いたします。これまでの研究の成果や課題を踏まえ、全道に空知の複式教育のよさを発信していけるよう努めてまいりますので、全道からの多数の皆様のご参加を心からお待ちしております。

第69回 全道へき地複式教育研究大会 檜山プレ大会の開催について

檜山へき地・複式教育研究連盟

研究部長 荒谷 幸恵

1 はじめに

本研究連盟加盟校は、平成30年度現在、5町8校です。児童数の減少に伴う町の適正配置計画によりここ数年で学校数は激減しました。今後も学校数の変遷においては、先行き不透明な状況が続きます。このような教育情勢下にあっても、私たち教師は、未来を拓く子供一人一人に質の高い教育を行っていくことが使命です。

檜山のへき地教育は「へき地にこそ教育の原点がある」「へき地にこそこれからの教育の展望がある」との信念のもと、先人達により優れた教育実践が引き継がれてきました。

へき地ならではのメリットを最大限活用し、共同研究を通して「少人数だから伸ばせる教育」「自然や地域を取り込み、へき地だからできる教育」を目指し、取組を進めていきます。

2 管内研究推進の方針

檜山へき地・複式教育研究連盟は、道へき複連・檜山へき複連の第9次長期5か年計画に基づいた実践研究を推進してきました。そして次年度は、平成31年度全道へき地複式教育研究大会が第10次長期5か年研究推進計画の初年度となります。そこで本プレ大会は、第9次長計の「実践検証整理期」を踏まえ、10次長計に基づいた研究を推進していきます。

本研究連盟では、プレ大会開催に向け、檜山大会実行委員会を組織し、プレ大会・本大会の成功を期して研究と準備を進めていきます。

3 檜山プレ大会の概要

- (1) 大会期日：9月27日(金)
- (2) 会場：檜山管内3会場
- (3) 各分科会：(平成30年度研究教科・年次)
(平成30年度4月現在の学校規模)

①今金町立種川小学校 〈算・1/3〉
普4(複式2学級) 児童数19人

②乙部町立栄浜小学校 〈算・2/4〉
普3(複式3学級)+2(特2)
児童数18人

③上ノ国町立河北小学校 〈算・1/3〉
普3(複式2学級)+3(特支3)
児童数25人

4 おわりに

檜山へき地・複式教育研究連盟は、北海道へき地・複式教育研究連盟の第10次長期5か年研究推進計画を受けて、これまでの研究推進の過程を踏まえながらその継承・発展に努めていきます。

学校統廃合や少人数化が一気に進み、加盟校が8校となってしまった当管内ですが、これまで積み上げ、創り上げてきた優れた教育実践を糧に自信と誇りを持って教育実践に邁進していく覚悟です。次年度のプレ大会、そして翌年度の本大会において管内複式校の協働・共育・共生の下、英知を結集し、組織的・計画的な実践研究を進める大会を目指します。

会場が3会場と規模は小さくなりますが、それぞれのもつ教育課題を解明・解決し、相互に交流を図ることによって、成果の実感できる実のある大会になる事を願います。どうぞ第69回全道へき地複式教育研究大会檜山プレ大会にご参加いただきますよう、心よりご案内申し上げます。